

「御国が来ますように！！」

あなたはどちらの国に生きるのか

マルコ5:1~15

自分の役割

私達は車のように多種多様です。弱いところがあり自分がみえてないが為に同じ所を何度もぶつけてしまい、同じ問題にぶつかる。整備しても壊れてしまう。人間によく似ています。自分の役割を間違えて隣の人をみて何で私はこうなのかと照らし合わせて見ていないでしょうか。あなたは自分の車の機能をどれくらい理解しているのでしょうか。神様はあなたの事をしっかりと目的を理解して綿密に計算して完璧に造りました。しかし、私達はそれが何なのか分かっていません。機能さえ知らない。間違った事に使っている事が多くてそして自分達の家族の事も理解していないので間違った事をさせてしまいます。神様は天地創造した日、人と深い関係をその人自身の事をよく教える為に自分と同じように造りました。心と心が通じ合ってその人の心に善悪を知る理解をさせる良心を与えて分からないことについて聞くように造りました。ところが、人はそれを裏切って自分で善悪を判断するようになりました。だから、分からない人が判断しているのです。

想像 VS 意志

「人は考える葦である」
これはパスカル（フランスの哲学者、物理学者、数学者、キリスト教神学者）の有名な言葉です。そのパスカルがなどの多数の名文句やパスカルの賭けなどの多数の有名な思弁がある遺稿集『パンセ』の中で以下のような事が述べられています。
「惨めさ」
「われわれの惨めなことを慰めてくれるただ一つのは、気を紛らわすことである。しかしこれこそ、われわれの惨めさの最大のものである。なぜなら、われわれが自分自身について考えるのを妨げ、われわれを知らず知らずのうちに滅びに至らせるものは、まさにそれだからである。」『パンセ断章171』
パスカルは「人は考える葦だ」と言いました。一本の葦だととても弱いのですが群生しているのだ。自分の役割を考えることができれば非常に強い集団になれる。
人間は葦のように弱いが考える能力を用いる事が出来れば非常に強い有意義な力を持つことが出来るのです。
人は考える事をせず紛らわせてしまいますがそれで大丈夫なのでしょうか。しかし、紛らわせるという考え方についてもう一度考える事をした方がいいのではないかと書いています。
「気を紛らわせること」
「人間は、死と不幸と無知とを癒すことができなかつたので、幸福になるために、それらについて考えない事にした。」
正義を果たすためには力があるのです。しかし、その力は正義でなければなりません。
正義とは何なのか。我の上に羊を置くということが義という言葉です。正しく生きるには自分の上に誰かを認めなければならない。力と正義に立ち向かったのがイエスキリストの生き方です。力によって国を制圧するのです。今の政治も話し合いではなく、力で正しいと書いています。イエスキリストは力ではなく義とは愛なのですと残したのです。頭では理解していますが私達は行おうとはしません。だから私達はこれをやらなければなりません。
愛には力があります。愛の原動力が変わらないからです。それを生き様で残したのが二千年前のイエスキリストの人生だったのです。天地創造された時から愛の形は変わっていませんでした。しかし、人は王が必要だと言い出しました。ところが人間の王の考え方は力で制してくれる王でした。
考える事を私達が行えば分からないという答えが無くなります。

イエスの弟子訓練

例えて話した事が終わり、弟子訓練が始まります。弟子達に具体的にどのようにして乗り越えていくかをおしえていきます。
①天地万物の奇跡
②悪霊に対する奇跡
③病に対する奇跡
④死人が蘇る奇跡
人間の目には起こらない事について彼らが目を通すことを通して弟子訓練をされていくシーンが行われていきます。人の考えでは不可能。神の前にはあるということが伝えられるためにこのシーンがあります。

ですから多くの宗教の危険なのはこの部分だけが独り歩きしていきます。宗教は私達の自然的な目的を果たすための存在。私達の本当の存在の自分が本当に自分なのかと確認する親子の関係、造った人と造られた者が自分の立ち位置を確認する為に行っています。ズレてしまうので、たまにははいけません。神様の前にズレていないか。いつも確認していきましょう。

ゲラサ人 (マルコ 5:1)

「追い出す・投げ出す」という意味があります。ゲラサ人の地というのは追放された人。神の言葉ではなく悪の言葉に従って生きる人がいました。その人達は夜な夜な嘆いていました。豚を飼っていたという事は汚れていたのです。放蕩息子が湯水のように財産を使い果たして無くなった時彼らが生きていくときに選んだ場所が豚の餌を食べたい為に働かせてもらおうと思うほどに落ちぶれていました。神の恵みに聞き従わず悪の声に聞き従ってそれで行く先。それが豚の世界です。

汚れた霊 (マルコ 5:2)

人が悪だくみによって悪の言葉に聞き従う行為。自分の心が支配された人が鎖で繋いで置くことができない状態になっていた私達は自分を制御できなくて散らされて追放されて孤独になって夜通し嘆いて、嘆きの壁で泣いている自分を傷つけている状態だと言っています。

石で自分の体を傷つける (マルコ 5:3)

傷つける状態とは切り取られ、主の集会に入れないうことを言っています。わざわざガリラヤ湖の恵みの隔たりの外に追放された人、アダムとイブが罪を犯して外に追放された状態。今日の私達の気持ちです。職場に行っても、人と向き合っても上手くいかない。私は一人で上手く出来ない自分を傷つけて、石で自分を傷つけて、なんで私はこうなんだと責めている状態。正しく今日の私達です。辛いから考えないようにしよう。分からない。しかし、パスカルはそんな時代の中にあってもう一度考えようと言ったのです。それはあなたがどんな車であるか知らないから。乗り方を習ってないから。だから聖書は教えています。あなたは誰なのか。私達は居場所を失ったのです。だから知って欲しいのです。あなたは何処にいるのですかと聞かれた時に。私はここにいますと言えないなら隠れて自分の罪を隠して自分を、蔑んで、私は何故こんな目にあっているのですか、何の為にやっているのですかとそんな状態になっているなら神様教えて下さいと言えいいのです。

御国に生きる為に

①神様教えて下さい。
私はどんな存在ですか。私は何処に行くために造られたのですか。私は何をするのですか。
②聞いた道に生きる。
そうすればあなた自身を見出すことができます。

さいごに

弱さの中で私たちの為にいのちを捨てて下さった羊を上に乗置き、私達の心に正義が起きます。疑い・怒り・裁き・仕返し汚れた霊…神のものではないものが私たちの中にあります。今日それをさぐり、告白し、神様の元に帰りましょう。力で変えるのではなく愛でかえる。視線を変えましょう！相手に正義を向けている時点で、相手を傷つけているのです。そしてそれは、自分も傷つけていることとなります。もし、憎しみ怒り、赦せない人がいるなら自分の為に赦しを告白しましょう。御国で選ぶことを選び、聴いた道に生きることは、何よりも私たちの為なのです。ガリラヤ湖のように、受けた恵みを豊かに流し「すべてが生きる」ものへと造り変えることを求めて神様の前に出続けましょう。

(要約者:富岡 美千男)

(2023年1月29日)